

福島第一原子力発電所の状況

2017年6月30日
東京電力ホールディングス株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 1.4 m ³ /h	22.7	1.42 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m ³ /h	28.4	4.34 kPa g	A系： 0.03 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.3 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m ³ /h	26.0	0.28 kPa g	A系： 0.02 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.4 m ³ /h			B系： 0.02 vol%

[1号機]

・2017/6/6～ 原子炉压力容器および原子炉格納容器内の不活性化のため、原子炉压力容器ヘッドスプレイラインから窒素封入を実施しているが、窒素封入ラインの信頼性向上を目的として設置したジェットポンプ計装ラインを用いた窒素封入試験を開始。2017/7 下旬頃まで試験実施予定。

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (6/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.1
2号機	循環冷却システム	運転中	27.4
3号機	循環冷却システム	運転中	27.5
4号機	循環冷却システム	運転中	24.6

各号機 SFP および原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

[5号機]

・2017/6/29 使用済燃料プール冷却浄化系(FPC系)にて冷却している使用済燃料プール(SFP)について、FPC系を冷却している原子炉補機冷却系の弁点検を行うため、SFP冷却をFPC系から残留熱除去系(RHR系)に切り替え。切り替えの際にSFP冷却が一時停止。原子炉補機冷却系の弁点検が終了した段階で、SFP冷却をRHR系からFPC系に戻す予定(7/18)。

[6号機]

・2017/6/30 使用済燃料プール冷却浄化系(FPC系)については、FPC系ポンプ現場操作盤に接触防止用の保護カバーを取り付けるため、10:42に停止。その後、予定作業が終了したことから11:53に起動。運転状態について、異常のないことを確認。起動後のSFP水温度は、22.7 (停止時と変化なし)。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/30 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4. その他 >

・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。

2016/3/31～ 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階：1～4号機の海側全面と山側の一部の凍結)を開始。

12/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所7箇所のうち2箇所(1号機西側・4号機西側の一部)について、凍結運転(第二段階)を開始。

2017/3/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所5箇所のうち4箇所(1号機北側・1号機西側・3号機西側・4号

機南側の一部)について、凍結運転を開始。

- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2017/3/28～ 汚染水処理を貯留した実績のない地下貯水槽 No.5について、貯留タンク設置場所の拡張を目的に、解体・撤去作業を開始。

【3号機燃料取り出し用カバー等設置作業】

- ・2017/1/17～ 使用済燃料プールにて保管している燃料取り出しによる福島第一原子力発電所のリスク低減に向けて、燃料取り出し用カバー等設置作業開始。

【サブレン他水処理施設の状況】

- ・2015/9/3～ サブレン他水処理施設運用開始。
- ・サブレン他水処理施設一時貯水タンクAの分析結果[採取日 6/25]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/30 10:06～ 海洋への排水を実施。

【地下水バイパスの状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

【1～3号機放水路の状況】

1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

・2017/6/29 10:01 頃、H2タンクエリアとH4タンクエリアの間の耐圧ホースから、水が滴下していることを協力企業作業員が発見。漏えい範囲は直径5cm程度。1秒に2～3滴程度で滴下が継続。滴下箇所は堰外であるが、水たまりの範囲は限定的であり、滴下箇所周辺に側溝等がないことから、外部への流出はない。滴下の状況は、淡水化処理RO膜装置とモバイルRO膜装置を接続する配管(耐圧ホース)の下部から滴下しており、10:40に滴下箇所下部のビニール養生を実施。その後、水溜まりがあった箇所の雰囲気線量を測定し、周辺と同等の値であることを確認。滴下した水の採取、分析、配管内の残水の回収処置を実施。滴下した水については、当該ホース内の一部水抜き、および滴下箇所周辺に止水テープを巻いたことにより、15:45 頃に滴下が停止したことを確認。当該ホースから滴下した水の分析結果は以下のとおり。

- ・Cs-134 : 検出限界値未満(検出限界値:4.4Bq/L) ・Cs-137 : 検出限界値未満(検出限界値:4.0Bq/L)
- ・全ベータ:19Bq/L

当該ホースについては、ホース設置時に堰内に溜まった雨水にて通水試験を実施した以降、一度も移送実績がないことから、ホース内に残った堰内雨水が滴下したものと判断。なお、前回実施したパトロール(6/23 10:00 頃)において、当該ホース周辺に異常が確認されていないことから、当該ホースからの滴下は、それ以降に発生したものと仮定し、養生が完了した時刻までの滴下量を算出した結果、約260Lと推定。当該ホースについては、今後も使用予定がないことから撤去する予定。

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

・地下貯水槽 No.2 の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、2016/6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約1,400m³の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。

・2016/3/1 に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔A11～17の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能がND(ND値22Bq/L)であったのに対し、最大で200Bq/Lに上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

<最新のサンプリング実績>

- ・地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件、および地下貯水槽i南西側および北東側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、6/29 に採取した水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上